

2019 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	固体音小委員会	主 査 名：漆戸幸雄 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：持田 灯 主 査 名：羽入敏樹
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	《設置目的》床衝撃音および固体音の測定、評価、予測法の検討を行い、AIJES 等に反映させる。《初～2 年度》1. ケーススタディによる床衝撃音予測計算の課題の抽出、整理。2. ケーススタディ用実測データの収集。3. タイヤ衝撃源とボール衝撃源による重量床衝撃音の関係性の分析、整理。4. 固体音関連の海外規格の調査、海外の研究動向調査。5. 成果公表の企画案の検討。《3～4 年度》1. 固体音予測手法の検討。2. 固体音関連の海外規格の調査、海外の研究動向調査。	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：漆戸幸雄 (フジタ) 幹事：朝倉巧 (東京理科大学) 委員：稲留康一 (奥村組)、井上勝夫 (日大理工)、岩本毅 (三井住友建設)、田中ひかり (大成建設)、中澤真司 (鉄建建設)、濱田幸雄 (日大工)、平光厚雄 (国総研)、藤橋克己 (前田建設)、山内崇 (戸田建設)、笠井祐輔 (日総試)、矢入幹記 (鹿島建設)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2019 年度予算	30,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 集合住宅 3 室を対象とし、複数の手法で予測を行い、実測値との対応などの検討を実施。 2. 委員の保有実測事例、測定予定物件を検討し、今年度中に 4 件の実測データを収集予定。 3. 収集したタイヤとゴムボールの床衝撃音データを基に、両衝撃源間の対応関係、互換性に関する見解を音環境規準検討小委員会へ答申。 4. 今年度開催された国際学会 (Inter-Noise、ICA、ICSV) を調査し関連論文を抽出。 5. 成果の公表方法、時期、内容などの意見交換を実施。
委員会活動の問題点 ・課題	特になし

2019 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・~~最終年度評価~~)

総合評価 (4 段階評価)	Ⓐ B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	1. 固体音小委員会で測定した集合住宅の 3 室を対象とし、複数の予測計算手法（インピーダンス法、拡散度法、モード関数法、時間領域差分 FDTD 法）を用いて床衝撃音レベル、駆動点インピーダンスレベルの計算（ケーススタディ）を実施し、実測値との対応、計算パラメーターの取り扱い方法などの検討を進めた。 2. ケーススタディの事例を増やすために、委員の保有実測事例、測定予定物件を審査し、今年度中に新規に 4 件の実測データを収集する目処を付けた（2 月下旬に実施予定）。 3. 収集したタイヤとゴムボールの床衝撃音データを基に、両衝撃源間の対応関係、互換性に関しての見解を音環境規準検討小委員会へ答申した。 4. 国際的な研究動向を把握するために今年度開催された国際学会（Inter-Noise、ICA、ICSV）に参加した委員から情報提供を受け、床衝撃音、固体音に関連する論文のリストアップを行った。

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。